

兵庫県西脇市 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

本市教育の指針である「みたい！ききたい！学びたい！」を基に、児童生徒が自分で考え、自分たちで行動しながら、自ら学び続ける力の育成を目指している。そのため、1人1台端末とクラウド環境（以下、「GIGA環境」という。）の活用を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していく。また、GIGA環境を十全に活用する中で、児童生徒が自律して学び続けるために重要である情報活用能力の育成を図り、各教科等で求められる資質・能力や非認知能力を高めながら、「自ら学び続けることのできる児童生徒」の育成を目指す。

2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度に全児童生徒分の1人1台端末（Windows）を整備し、学校現場における各教科や学習場面に応じた日常的な利活用を図るとともに、家庭への持ち帰りやデジタルドリル等を用いた家庭学習や長期休業中の課題など、様々な場面で活用することで、児童生徒の学習意欲及び学力の向上に努めてきた。しかし、端末の活用においては、起動までに時間がかかるなどのトラブルや容量不足による不具合が多数見受けられた。

ICT環境の整備については、必要なネットワーク速度が確保できていない学校が一部あったため、利用状況によって、ネットワークの接続が不安定で端末操作ができないという事象が起きている。そのため、令和6年度にネットワークアセスメントを実施し、大容量通信ネットワークや周辺機器等も含めたICT環境の改善に向けた対策を行うこととしている。また、自宅に通信ネットワークが整備されていない家庭については、モバイルルーター等の貸し出しを行い、児童生徒の学習環境に支障が生じないよう対策を講じている。

令和5年度より、文部科学省リーディングDXスクール事業の指定校に採択され、GIGA環境を活用した効果的な授業実践の創出とモデル化を目指して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできている。授業においては、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現といった探究的な学習過程を行う活動が定着し、子ども主体の授業の実現に向けて大きく推進している。さらに、令和6年度からは、市内すべての小中学校を指定校若しくは協力校とし、「自ら学び続けることのできる児童生徒」の育成を目指して、市内一体となってGIGAスクール構想の加速化を図っている。

このような取り組みを行ってきた、本市における令和6年度全国学力・学習状況調査学校質問紙から明らかになった成果と課題は、以下のとおりである。

なお、教育DXに係る当面のKPIを踏まえた項目について抽出している。

K P I	本市現状値 (年度)	目標値 (目標年度)
児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：100%(R5) 中：25.0%(R5)	小：100%(R8) 中：100%(R8)
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：87.5%(R5) 中：50.0%(R5)	小：80%(R8) 中：80%(R8)

教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：75.0%(R5) 中：25.0%(R5)	小：80%(R8) 中：80%(R8)
児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：87.5%(R5) 中：25.0%(R5)	小：80%(R8) 中：80%(R8)
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：100%(R5) 中：25.0%(R5)	小：80%(R8) 中：80%(R8)

小学校においては、既に達成している項目も多く、活用が進んでいる傾向にある。しかし、中学校においては、学校間や学級間、教職員間の活用頻度の差については依然散見され、さらなる活用の促進が課題となっている。また、「自ら学び続けることのできる児童生徒」の育成に取り組む中で、児童生徒の学びが浅くなる授業事例が発生してきている。子どもに学びを委ねるためには、深い教材研究や児童生徒の学習状況や理解度の把握が必要不可欠になるが、それらが疎かになり、指導が行き届いていないことが原因として考えられる。しかし、指定校では、個別最適・協働的な学びが充実し、「自ら学び続けることのできる児童生徒」の育成が進み始めている実践が創出されてきている。このような実践から学ぶ機会を多く設定することで、市内全体へ横展開し、GIGA第1期での取り組みを一層加速させ、国の示す目標の達成を目指していく必要がある。

3 1人1台端末の利活用方針

令和7年度にOS変更を含めた端末（Chromebook）更新を計画しており、更新にあたり各校及び関係各課が情報共有を図りながら、更新作業を進めていく。また、適切なICT環境の整備を行うことで、児童生徒にとってさらに充実したGIGA環境を維持していくことを目指していく。

令和5年度より研究を進めているリーディングDXスクール事業の成果として、市内全体において1人1台端末の日常的活用が実現しつつある。しかし、上記2で示したように、学びが浅くなる授業実践が発生し「個別最適・協働的な学びの充実」については課題が見られる。そのため、教職員の指導力のさらなる向上を目指し、児童生徒の学習状況の的確な把握（見取り）と、個に対する丁寧な指導の工夫と改善を図り、授業や校務において積極的にGIGA環境の活用を図ることができるよう、これまでの研修等の取組を更に充実させていく。さらに、リーディングDXスクール事業研究指定校公開授業研究会への積極的な参加を促し、子ども主体の授業における取組を共有しながら、授業における実践や取組、指導の改善について学び合う機会を創出し、すべての学校において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進できるよう、推進体制と伴走支援を強化しながら、本市が抱える課題解決につなげていく。

また、特別な支援を要する児童生徒、不登校児童生徒（不登校傾向も含む）及び日本語指導が必要な児童生徒等に対し、1人1台端末を活用することで学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒の学習機会を確保していく。GIGA環境を活用することで、連絡体制の整備、教材の共有、オンラインでの授業への参加が少しずつ進んできている状況にある。さらに、児童生徒の思いや実態に応じ、児童生徒が自ら選択し、主体的な学習を進め、学習の効果を高める取組を推進し、市内すべての学校で実現することを目指していく。